

◆◆◆ 新年あけましておめでとうございます ◆◆◆

かつてのお正月あそびの定番と言えば「双六」。明治35年に初めての少女雑誌が誕生して数年後には新年号のふろくとしても登場しており、長い間少女たちに親しまれていました。

‘ふりだし’から‘上がり’までが描かれた絵双六のコマ絵には、その時代の人々が夢見た幸せの形や興味関心の対象がよく表されています。良妻賢母が理想とされていた明治～大正に作られた少女向け双六の上がりが「嫁入り支度」「お嫁入り」といった具合です。

今月号では、当館コレクションの中から貴重な双六をご紹介します。

通常版「わすれなぐさ」では、さらに詳しい情報をご紹介します。ぜひ手に取ってご覧くださいませ。



双六とは？

室内遊戯の一種。

- ① 盤双六。二人が対座して、二個の采（さい）を木または竹の筒に入れて振り出し、出た目の数だけ盤に並べた棋子（駒石）を進め、早く相手の陣に入ったものを勝ちとする。インドに起こり、中国を経て奈良時代以降に日本に伝わり、古くから賭けが行われた。
- ② 絵双六。紙面に多くの区画を描き、数人で①に準じて勝負する。江戸前期から民間に行われ、中期以後には飛双六・道中双六など種類も増え、近代以降は特に子供の遊びとなる。

—『広辞苑（第七版）』より

とっておきの双六（当館コレクションより）

およばれ双六（絵／川端龍子）

『少女の友』 明治44年1月号ふろく



描かれているのは門番もいるような大豪邸。庭には「瀧」「運動場」「温室」など、家の中には「蔵」「女中部屋」「書生部屋」まである。

滑稽双六（絵／鶴田吾郎）

『少女の友』 大正4年1月号ふろく



卯年にちなんで、全て「う」から始まり、「ない」で終わる双六。「受付給仕愛嬌がない」「うつした写真が気に入らない」などユニークな描写が面白い。